# 東日本大震災・福島第一原発事故の避難から10年 浪江町市街地の街並み定点観測

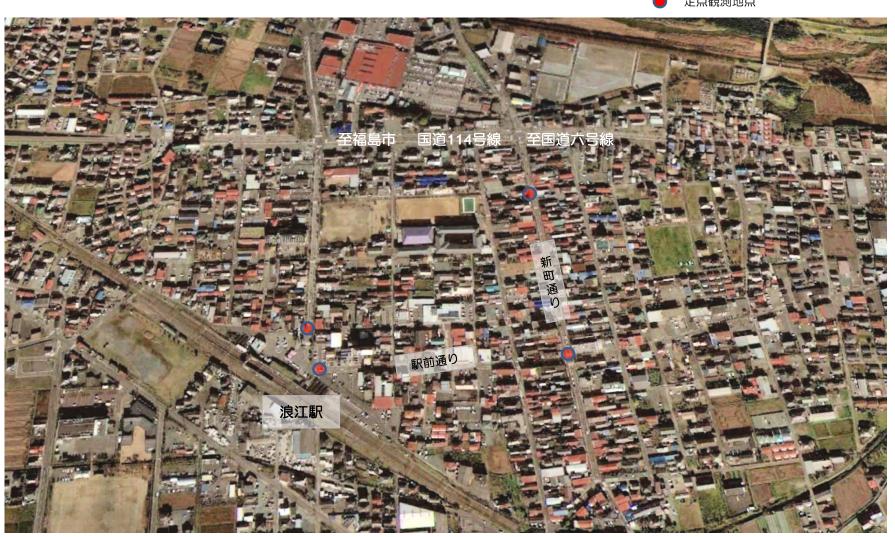
2011年3月11日東日本大震災それによる津波によって福島第一原発事故に至り、放射能被害を避ける全町避難、そして2013年春によう やく復興への足掛かりとなる市街地立ち入りが認められ、その時期から全町避難後10年を経過した2021年3月まで浪江町市街地の街並み景 観を定点観測してきました。

10年という長い年月を経ても、いまだ復興途上でようやくその端緒をつかみ始めたというところで、住民の帰還率も約10%程度にとど まっていますが、10年を一つの区切りとして定点観測の経過をまとめました。

# 2010年10月(東日本大震災前年)の常磐線浪江駅前に展開する浪江町中心市街地

東日本大震災当時の人口は、約21,500人でした。

定点観測地点

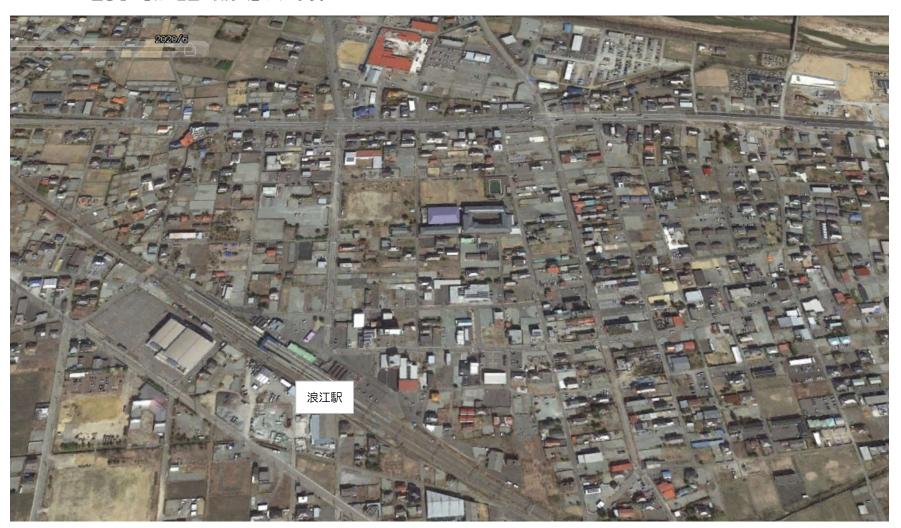


# 2021年03月(東日本大震災より10年)の常磐線浪江駅前に展開する浪江町中心市街地

現在の住民登録数は約16,500人で、浪江町内には約1,600人が居住しています。

現在も避難されている町民の内、54.5%の方は戻らない事を示されている厳しい現実があります。(2020年9月住民意向調査による)人口密度の最も高い常磐線浪江駅を核とした浪江町市街地は、震災による被害及び長期間による避難による痛み等による住宅損壊が進み住宅解体が復興事業と併行し進んできました。

10年を経過した現在、ようやく復興の端緒を掴みはじめたというのが現状であり、市街地では今後も進められる住宅の解体により空き地の増加が目立つ状況が進んでいます。



# 浪江町東日本大震災から復興への足跡2021 (定点観測写真)

期間: 2013年5月~2021年3月作成: 一社) 南相馬除染研究所 田中節夫



2013-5月 地点A 北 激震と避難の跡を記憶する激しく損壊した薬局

2013-5月 地点B・C 南 浪江町の玄関ロ 無人の常磐線駅前広場

2013-5月 地点C 東(C-D中間) 駅前通り倒壊寸前の名店大室屋

2013-5月 地点D 北 倒壊した銘酒天王山の上田酒造本店









2013-5月 地点A 南 新町通りも多くの倒壊損壊家屋が目立つ



2014-9月 地点A 南 町育ちの定住?子連れ猪が徘徊



2014-10月 地点A 東 あぶくま信金前の損壊激しい喫茶店と路地



2013-5月 地点B • C 南 錆びた鉄路が続く常磐線浪江駅構内



2014-10月 地点B•C 北 雑草の繁茂する鉄路原ノ町方面を望む



2014-10月 地点B 北 倒壊寸前の駅広場前に並ぶ店舗群



2013-5月 地点C 東 駅前通りにも多くの損壊家屋が目立つ



2013-5月 地点D 南 交差点付近の倒壊老舗印刷店



2014-8月 地点C 東(C-D中間) 名店大室屋解体、更地になる(P1大室屋写真参照)



正面に浪江駅を望む新町通り



浪江駅側から見た倒壊家屋付近

2014-10月 地点A 北左 年月を経て損壊の風化が更に進む薬局



2015-2月 地点A 南 立ち入りを規制され無人の新町通り



2015年7月 地点A 北 国道114号線と新町通り交差点付近に 新たに進入規制ゲート新設



2014-10月 地点B 東 駅前広場東寄りの家屋が斜め倒壊の危機



2015-1月 地点CよりBを望む 劣化が進む駅前広場周辺の損壊家屋群



2015-1月 地点C 東 災害後4年目の新年を迎えた駅前通り



2015-1月 地点 駅前自転車置き場のモニター



2015-5月 地点B 西



交差点より西及び北方向の通りの店舗及び住宅は全て倒壊同等の損壊被害 従って、帰還前に解体が避けられず、駅前は大きな空間が生まれることにな

2015-3月 地点C 東 · D中間 駅前通り農協スーパーの損壊が時間 経過 とともに進んでいる





2016-4月 地点A 南 損壊家屋の解体準備の作業がされている



2016-6月 地点A 南 あぶくま信金沿いの家屋解体更地化された



2016-7月 地点A あぶくま信金左隣の店舗修復開始



2016-5月 地点B 北(B-R114中間) 西病院前の公園の桜は人知れず満開



2016-6月 地点B 西 2016-6月 地点C 東 駅前店舗群一部の解体準備始まる 復興工事準備か?規制ロードコーンが増加





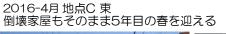
2016-7月 地点B西 奥側の家屋解体工事が本格化する



2016-7月 地点C 東(C-D中間) 農協ストアの壁面倒壊が更に進行



2017年4月を目標に浪江町市街地を中心とした町民帰還計画が発表され、町内復興への手掛かりとなる 倒壊・損壊家屋の解体作業が、市街地各地で本格化してきた





2016-1月 地点C 駅前自転車置き場のモニター



2016-6月 地点D 北 新町通り銘酒天王山の上田酒造本店解体



2016-7月 地点D 南(双葉方向) 駅前&新町通りの交差点、多くの店舗



2016-7月 地点A 南電気工事店解体工事完了、更地化された



2016-9月 地点A 西 あぶくま信金営業再開 2017-4月、浪江町市街地を中心に町 民帰還が実現することに先立ち金融機関 の一つが再開された



2016-8月 地点B 西 奥側の解体工事完了、更地化された



2016-9月 地点B 西 駅前交差点付近損壊店舗群の 解体完了、全域が更地化された



2016-9月 地点B 東 通行が制限され、路地奥の家屋解体が 活発に行われ始めた



2016-8月 地点C 東 駅前通り復興、道路修復工事開始



2016-8月 地点C 東 駅前通り復興へ道路側溝工事



2016-10月 地点C 東(C-D中間) 駅前通り中間点より道路復旧工 事の進む浪江駅方向を望む



2016-7月 地点D 西(浪江駅方向) 浪江駅から駅前通り店舗が連な る通りで、多くの損壊家屋が目 立つことから復興への家屋解体 が今後増加する



2016-7月 地点D 東(R6号方向) 国道6号線方向を望む(左角は東邦銀行)



2016-7月 地点D 北(小高方向) 新町交差点から新町通りの中心を望む



2016-9月 地点A 北 あぶくま信金の北隣隣り損壊 店舗群はいまだ手つかず!



2016-10月 地点A 北 あぶくま信金の左斜め前、店舗解体更地化される



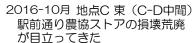
2016-10月 地点B 東

家屋倒壊の恐れあり、解体着手

2016-11月 地点B 東家屋解体更地化された



地点A 西 来年の住民帰還に向けて、唯一 営業を再開している金融機関あぶ くま信用金庫





2016-11月 地点C 東 前通り倒壊家屋が解体 更地化された



2016-10月 地点D 南(双葉方向) 震災により倒壊していた浪江印 刷所が解体更地化された



2016-10月 地点D南(双葉方向) 浪江印刷所左隣の店舗解体が始まる



2017-1月 地点A 東 路地奥の家屋解体工事開始





浪江駅 2017-4月 4/1からの住民帰還に合わせ、常磐 線仙台~浪江復旧6年ぶりに再開通

\$607/00/200

2017-1月 地点B • C南



しばらくは、浪江終点の路線表示



2017-1月 地点C 東 駅前通り道路復旧修復工事



2017-3月 地点C-D 新町から駅前通り道路復旧工事



2017-5月 地点C 常磐線開通に合わせて駅前タクシー復



2017-1月 地点C 駅前自転車置き場のモニター



2017-3月モニターは駅前花壇 に移設された 4/1表示0.276 µSv/H)



2017-5月 地点D 西 交差点の長橋商店他解体更地化された





## 2017-6月住民帰還2か月後 ある日の町内屋下がり風景

(帰還すれども賑わいの無い商店街) 地点A 新町通り南方向



地点A 新町通り北R114号方向



地点B 東 郵便局通り方向



地点C 東 駅前通り全景(R6号方向)



地点D 西 交差点(駅方向)

地点D 南 交差点(双葉方向)



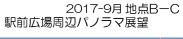


2017-8月 地点C 東 解体農協ストア整地工事中



メイン道路から一歩裏へ入ると、 震災損壊の長期放置により解体 せざる得ない家屋が多く取り残 されている。

2017-9月

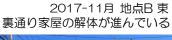




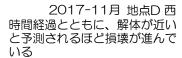
地点B-Cの道路沿い家屋の大多数が解体更地化され、再興へ向けた 震災家屋解体後の都市再生計画プランの早期実行が待たれる



2017-11月 地点A 東 あぶくま信金前の喫茶店解体が始まる



2017-9月 地点C 東解体農協ストアが更地化された





2017/11/28



20111/23

2017-11 地点A 東 裏の家屋も解体され、通りの喫茶店も長い歴史を閉 じ、全て更地化された

2017-12 地点B及び地点C駅前通り方向を望むパノラマ展望駅前広場とその周辺の家屋の過半数が整理され、2018年は駅前広場周辺の賑わい再開発が期待される

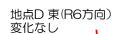
2017-12地点D 北 新町通りを望むと、GSと一部金融機関 の営業が再開されている





2017- 地点A 北 最も損壊の激しかった、あぶくま信金並びの 薬局が6年9か月振りに解体、更地化された。 傷みの激しい両隣は何時?

両隣も傷みが激しい



2017-12月 地点D (双葉方向)交差点右側の更地化など付近の 整理が進む



2018年1月 3月には震災より8年目、帰還から2年目を迎え、本格的な復興への期待が高まります

2018-1月 新町通り(あぶくま信金付近)

地点A 南 左右側帯で家屋解体更地が増加



地点A 北 南 同様に左右側帯で家屋解体更地化進む



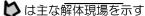
2018年は市街地

再興の槌音が あちこちで響いた年

となりました









2018-1月 浪江駅前通り(浪江駅広場付近)

地点C 東 駅前通り 解体が進 み、営業店舗なし



2018-1月 地点C 駅前広場のモニタリ ングポスト故障未稼働

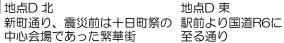
地点B 北 西病院通り

地点C 西 駅前広場タクシープール 人々の往来は少ない



2018-1月 新町通り交差点 地点D 南 双葉町方向の通り修 復準備店舗が目立つ







浪江駅前通り方向更

地化が最も進む

地点D 西

地点D 東 至る通り





地点B 東 浪江郵便局通り



2018-4月~12月

地点A 北 R114方向

あぶくま信金北隣 各店舗兼住宅の解体が12月には全て完了、

R114まですべて更地化された











2017-5月 地点D 新町交差点



半谷写真館並び長橋商店の2017-6月解体後、個人住宅が2018-11月に再建されました。



2018-11月 地点D 個人住宅完成

2018-3月 地点C 西 駅前広場西側「タクシー会社兼ゲームセ ンター」 リホームエ事が開始される





新町通り交差点

2018-12月 チョコレート色3階建、震災前から付近では建築高さと茶色で目立っていた新聞販売店ビルが解体され更地化されました。



2018-11月

ほっと一息復興発信 福島・浪江駅前にカフェオーブン

十日市に合わせ復興発信拠点 カフェ「もんぺるん」へ衣替え 河北新典

2018-8月 地点C駅前通り 和食「大坊」西隣のビルが解体、11月には更地化終えたことで 駅前通り中間の農協ストア跡地までほぼ更地化されました。



2018-10月 地点B 北 R114方向 浪江小前にある浪江の中核医療機関であった西病院 が解体工事を開始しました。





2018-9月



2018-11月 地点C 駅前 浪江駅前にてカーシェアリング 電気自動車の営業が開始、住民 の帰還準備などにも利便性が高 まりました。



2018-12月 地点D 北 新町通り 商店解体



新町交差点の店舗 「わたや」が解体更 地化。

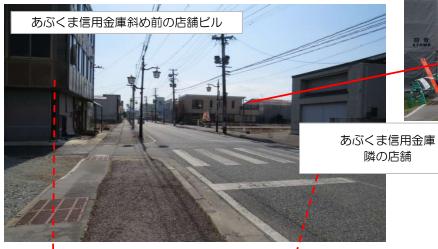




震災後初めて町内で伝統行事十日町 市イベントが再開、多くの町民でに ぎわった、普段閑散としている駅前 駐車場も、今日ばかりは大変な混雑 を再現した。

2019-2~9月 地点A ~Dに至る通称:新町通り沿い

2019年初頭からA地点からD地点に至る新町通りの店舗解体が進み、新町通り商店街沿いでは、東邦銀行浪江支店や周辺店舗の解体やリホーム再建があり、市街地の復興事業の活性化が震災9年目にしてようや く期待されます。



# 2019-5月(令和元年最初の月)



2019-2月 地点C 駅前モニタリングポスト観測値



2019-7月リホーム完了





2019-12月 地点B&C

常磐線浪江駅より駅前景観を望む

地点 B 駅前店舗・家屋は、2018年度中頃までに数棟を残し解体更地化を終え、再建への待機状態。日常の 往来は少なく、いまだ閑散としているのが現状。



### 2019-12月 地点 B&C前 常磐線浪江駅

2017年4月からの仙台〜浪江間の常磐線臨時運行開始に伴い、ホームには東京方面への鉄路が遮断されていることが判る遮蔽乗客通路ゲートが設置され、震災被害の現実を見せつける厳しい景色となっていた。2020-1月には、当年(令和2年)3/14、実に9年ぶりの東京までの全線復旧の決定がされ、ホーム遮蔽ゲートが撤去されました。

ホーム遮蔽乗客通路ゲートが 撤去され本来のホームが9年ぶ りに復元、全線復旧への準備が 始まりました。



新町通り交差点周辺も復旧工事車両の往来は多く行きかっていますが、2019年度も帰還住民が少ないことから、商業活動はほとんど再開されておらず、人の行き来が認められない一年となっています。

また新町通り南側周辺の店舗や住宅の多くは、解体 更地化が進んでいますが、再建への進捗が遅れ気味 で、いまだに解体又はリホームを待つている店舗など も、多く残されています。

全線復旧開通までの2020-3/13までは、浪江~富 岡駅間は不通であることを示す駅掲示の案内板



2019-12月 地点 D 新町・浪江駅通り交差点



### 2020-1月 地点C

駅前広場モニタリングポスト観測値



2020-4月~6月 地点A

あぶくま信用金庫前、最後に残された三原自転車店が解体され、周辺はすべて更地化 新町通りの北寄りは再興準備が整ったように思われます。





2020-3月

地点C

常磐線全線開通 震災から9年、浜通りを南北 に縦断されていた鉄道がこの日 開通、東京方面への重要交通機 関としてだけでなく県民の絆の 強化、情報や物流の大動脈とし ての機能が復活しました



東北農政局の調査(アンケート)結果 原発事故による避難地区県内12市町村の 農家を対象とした営農再開

及がころがこって口及づか				
意向	比率	区分け比率		
営農再開の意向なし*	43%	57%		
未定	14%			
再開済み	29%	43%		
再開の意向あり	14%			
(C) (C) (N I (+++ (-) ) I =	77 4 - / 4 6			

n(回答)/N(対象)=1,774戸/10,600戸 意向なし\*の理由

※19.60・92年出	
帰還しない	39%
高齢化や地域の労働力不足	38%
機械や施設が未整備	19%
農地確保が困難	10%

### 2020年-2/12 河北新報より

福島第一原発事故に伴う全町避難後、小中9校が避難 先での再開や休校などの措置となっていたが、児童生徒 減少により7校が来年2021年4月1日付けで平衡とな ることが決まる。

閉校となるのは今春児童がゼロになる浪江小と、すでに休校となっていた幾世橋、請戸、大堀、苅野の5小学校と浪江、浪江東の2中学校。

現在帰還困難区域が継続されている津島地区にある津島中は休校を続け、避難先の二本松市で再開した津島小は来春に児童がゼロとなった時点で休校扱いとなる。

2017年春に避難指示が一部解除され、浪江市街地に東中を改修して2018年春「なみえ創生小・中学校」が新たに開学。

2020年7月解体が計画されました。

### 2020-2月~5月

地点D 駅前通りと新町通りの交差点、町の中心 的交差点に最後まで残された震災建屋が解 体され再興を待つことになりました



2020-8月

地点A

新町通り沿いのあぶくま信用金庫周辺の 商店は全て解体され、8月には初めてあぶ くま信用金庫隣の跡地に新規店舗建設が開 始、コロナウイルスの影響を受けたか、翌 年2月にようやく開店が整っていました



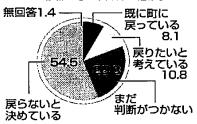
2020-12月 地点C

常磐線特急も運行されていますが、 2020年はコロナウイルスの影響で交流人口が激減、開店休業状態が続いています。



### 2021-1月復興庁発表の住民意向調

### 浪江町の帰還の意向



2020 (R2) 年12/末人口統計

(出典:浪江町住民登録統計値)

総人口:16,718人 男性:8,235人

女性:8,483人

世帯数: 6,819世帯

避難住民届及び転入届による浪江町居住人口

居住人口: 1,554人 世帯数 : 975世帯

# 東京都民の「放射線 理解」…依然進まず 風評など都民意識調査

#### ◆東京都民対象の放射線意識調査

問. 現在の放射線被ばくで、健康影響がどの くらい出ると思うか

	100	HOCKSI		
2020年	15.9	40.4	40.4 34.4	
19年	14.3	39.2	33.3	13.2
17年	13.4	33.1	38.3	15.2

問. 現在の放射線被ばくで、次世代以降の人への 健康影響がどのくらい出ると思うか

	DEDRE	DE D.C	-07 - 50	I POLITICA	מוכוט.	
2020年	17.6	41.2 43.0		33.3 30.6		7.9 10.8
19年	15.6					
17年	14.7	3	5.5	36.6		13.2
(%)(		20	40	60	80	100
可能性は	す極めて	はしい・		→可能	性は非常	に高い

2020-8月~9月

地点D

新町交差点から南端に位置する、全区画 (約150m) 店舗兼住宅の解体更地化工事 が銀行及びGSを除き終了。商店などの市 街地再開発の準備が整ってきました。



2021-1月三菱総研調査報告 東京都民1,000人による福島県民への健

# 福島民友

放射線の影響により今後、福島県民にが んなどの健康影響が出たり、次世代に遺 伝的影響が生じたりすると誤って理解し ている人が4割に上った。昨年の調査と 比べて割合はほとんど変わっておらず、原 発事故から丸10年を迎えようとする今 も放射線の影響を巡る正しい理解が進ん でいない実態が浮き彫りとなった。 2020-12月

地点B•C

# J R 浪江駅周辺「再開発」へ 浪江町、 商業・交流施設など 整備

2020-12浪江駅前復興計画発表

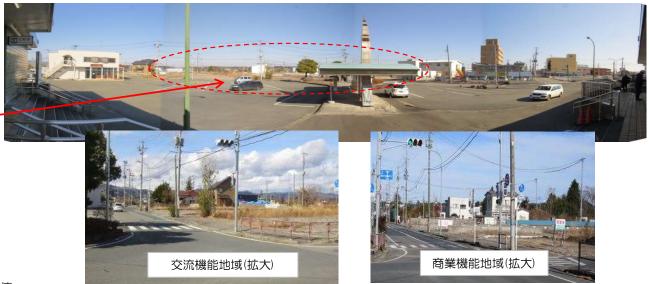


2021-1月 地点C

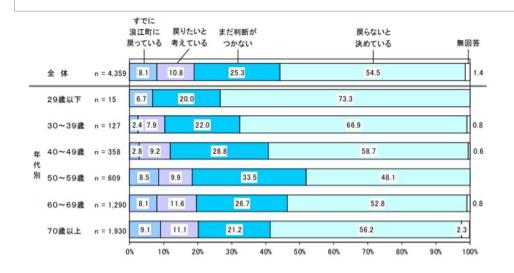
駅前広場モニタリングポスト観測値 震災10年を経過した浪江駅前の放射線量



駅前広場から望む、地点B(赤点線枠)の住宅及び店舗解体更地を、町主導の街賑わい ゾーンの創出によって、市街地再生を図ること及び駅前の利便性向上を図り、居住人口 の拡大につなげる再開発プランが浪江町より発表されました。



年代別にみた帰還についての住民意向の傾向(令和2年12月調査) (概要)長い避難生活で、避難地における生活基盤が確立している、生活環境の利便性が優れていることから、若い人ほど帰還意欲が小さく、高年齢者ほど「つながりや故郷への執着」が強い傾向が認められます。これは全避難地区で共通の傾向となっています。



### 震災から10年目(2021-3月)の

新町通り:あぶくま信用金庫前から北方向を望む。

通りに沿った左右(東西)の商店がすべて解体撤去、更地化され復興再建への 準備が整い始めています。

### 地点A 新町通り北方向左(西側)



新町通り北方向右(東側)



新町通り:あぶくま信用金庫前から南側を望む。

通り左側は建物解体がほぼ完了した状態で、右側は解体およびリホームなどを経て事業復興、またあぶくま信用金庫隣の倉庫解体後2021-3月には飲食店が新規開店するなど、復興への歩みが認められます。

### 地点A 新町通り南方向左(東側)



新町通り南方向右(西側)



東日本大震災に端を発した地震と津波による、福島第一原発事故による放射性物質拡散というかって日本国民の誰もが経験したことのない未曾有の経験から10年、世界的な感染症となったコロナの影響により、1年延期された東京が火ッグがこの年夏に開催されるなどなど、いま国も政治的経済的に困難な対応を迫られています。

震災からの復興も途上にあるこの時期に、浪江町も世界的な災害と云えるコロナ克服への挑戦そして浪江町再興のシンボルとなるか水素エネルギー産業など、厳しいが明るい未来を描く近代地方都市となることを期待したい。

### 地点B周辺



中央の西病院前通りを挟んで駅前の左右建屋はすべて解体、更地化されており、現在は常磐線浪江駅前再興計画を待つ状況にあります。 浪江町役場による駅前再開発計画では、商業及び交流施設と一部住宅などが計画されているようです。

### 地点C 新町通りに至る駅前通り周辺

### 駅前通りの左側



駅前通りの右側

### 地点C 駅前通り

通りに面した左右建屋のおよそ80%は解体、リホーム及び 更地化が完了、一部飲食、農協 など生活環境に接する社会環境 が整いつつあります。